

No.	④	分類	2-(2)-ア	資料名	どうして？	学年	全学年	領域	道徳	4-(3)
-----	---	----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-------

1 ねらい

- いじめに同調したり傍観することなく、互いの違いを認め合い、いじめは絶対に許さないという態度を身につける。

2 趣旨

- 友だちを無視する行為に同調した「なつみ」の行為は、いじめと同様であることに気づかせるとともに、いじめの未然防止や解消のためには、まわりの人がいじめは絶対に許さないという態度を示すことの大切さを理解させる。
- いじめは、「相手の人権を踏みにじる行為であり、決して許されるものではない」ことを理解させるとともに、子どもたちが人の痛みを思いやることができるよう人権意識の高揚を図る必要がある。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 友だちの存在について考える。	・話をしたり遊んだり、時には相談したりしていることを捉えさせる。
2 「なつみ」の気持ちを考える。	
みずほからのメールに対して、なぜ「なつみ」は『どうして』と返信しなかったのでしょうか。	
・逆らえない雰囲気があった。 ・余計なことは言わない方がいい。 ・自分がいじめられる心配がある。	・無視に同調したり傍観したりすることは、いじめをしているのと同じであることを捉えさせる。
「なつみ」は、ユミを無視している時、どんな気持ちだったのでしょうか。	
・ユミには悪いけど仕方がない。 ・自分が無視される立場になりたくない。 ・本当はいじめはダメだと言いたい。	・いじめの被害者は、悲しく苦しい気持ちであることはもちろんであるが、いじめに同調したなつみも苦しんでいることを理解させる。
3 ユミからのメールを受けて、「なつみ」が打ち始めたメールについて考える。	・ユミからのメールを受け取った時のドキッとしたなつみの心の痛みを考えさせる。 ・自分の過ちに気づき、仲裁者として勇気を出して行動することの大切さに気づかせる。
「なつみ」は、誰に、どんな内容のメールを打ち始めたのでしょうか。	
・ユミへ…無視をしてごめんね。 ・みずほへ…やっぱりいじめはよくないからもう無視はやめよう。	・いじめの構造を理解させるとともに、これまでの自分の言動を振り返り、人としての在り方を考えさせる。 ・いじめの未然防止や解消には、まわりの人がいじめは人権侵害であり絶対に許さないという態度を示すことが大切であることを理解させる。
4 いじめの構造を踏まえ、いじめを絶対許さない学校・学級づくりについて考える。	
いじめを絶対許さない学校・学級づくりのために、自分にできることは何でしょう。	
・腹が立つことがあっても相手は無視したりせず、話し合って解決する。 ・傍観者でなく、仲裁者になれるようにする。 ・一人一人の個性や違いを大切にする。 ・「いじめは絶対許さない」をスローガンにしてみんなで取り組む。	

4 参考

- 中学生用「いじめを許さない人権教育教材」（平成 25 年 兵庫県教育委員会）から引用